

「働き方の改革」

「製造の見える化」で

急ぎの案件にも

素早く対応

〈SDGs推進部門〉選定

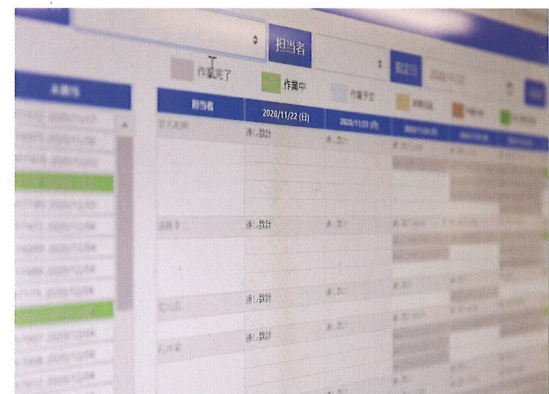
株式会社タック印刷
〈ラベルシール製造〉

かつてどの家の玄関にも貼られていたNHK放送受信章をはじめ、工業製品に貼られる製品ラベルなどの印刷を手掛けてきたのがタック印刷だ。2016年、同社は東京都の「働き方改革宣言企業」に町工場で初めて手を挙げた。優秀な人材確保のためには、宣言にふさわしい企業として効率化やシステム化が不可欠との判断からだった。100%男性で特定の技術者に業務が集中し、残業も多かった製造の現場を見直し、当時20歳の女性技術者を配置するな

ど、社内の意識改革に努めた。一方、丸1日かけていた受注入力を完全に自動化したり、各フロアのタブレットで、受注から作業状況、在庫確認に至るまで全員が把握できる「製造の見える化」を図った。これらの取り組みにより急な案件にも素早い対応が可能となったとともに、定時退社や休暇取得率の向上、先輩・後輩従業員のコミュニケーションが増え、技術の向上にもつながっている。

アメリカの製品安全規格「UL規格」の資格を取得

同社は従業員数22名の町工場だが、1982年には第1回FINAT世界ラベルコンテストにおいて優勝。以降、たびたび入賞もしている。リーマンショック以降は、価格競争による受注よりも、独自性を強みにする方向へと転換。2011



年には業界初となるレーザーマーカを導入した。レーザーによって、耐久性が求められるラベルなどの技術も確立した。またアメリカの製品安全規格、UL規格を扱う資格も取得。町工場で取得している会社は少ないが、お客様の求めるニーズや品質に応えるために技術と品質向上に努める姿勢が、精密機器の設計開発部門などの新たな取引につながってきている。

Message

「働き方改革」はただ優秀な人材がほしいという気持ちからでしたが、そのおかげでいい人材は男性女性関係なく採用していること、ゆとりを持って働ける企業という印象が伝わり、人材確保の苦勞がなくなりました。人材が安定していることが、製造現場へのいい刺激にもなっています。また、レーザーマーカの導入により小ロット多規格に対応できるようになり、他社が撤退するなかでUL規格に特化することは営業時の強みになりました。いずれも弊社のような町工場にはかなりの冒険でしたが、これからは少しだけ背伸びをして、今の技術より上のことに思い切ってチャレンジしていきたいと考えています。



代表取締役 高田 朋幸

株式会社 タック印刷

〒130-0002 東京都墨田区業平1-9-7
TEL. 03-3623-4034 FAX. 03-3626-2078
HP : <https://www.takprint.co.jp>
E-mail : label@takprint.co.jp